



東京ベイeSGプロジェクト

Version 2.0

案

東京ベイ e S Gプロジェクト (Version 2.0) 案 目次

■ 東京ベイ e S Gプロジェクトを加速させる	1
<u>東京ベイ e S Gプロジェクトとは</u>	3
■ 50年・100年先の未来の東京を創る	4
■ ベイエリアを舞台に未来の東京を築く	5
■ 「自然」と「便利」が融合する「持続可能な都市モデル」の実現	6
<u>プロジェクトのこれまでの振り返る</u>	7
■ これまでの取組と成果	8
■ ベイエリアを取り巻く状況	15
■ 臨海副都心エリアの賑わいを創る新たなコンテンツ	16
<u>プロジェクトの実現に向けた戦略</u>	17
■ プロジェクトの実現に向けた戦略をアップデート	18
■ プロジェクト実現に向けた戦略（2050年代に向けて）	19
◆ <u>環境・GX</u>	
◆ <u>DX・テクノロジー</u>	
◆ <u>共創・仲間づくり</u>	
◆ <u>まちづくり</u>	
<u>プロジェクトの今後の展開</u>	27
■ 東京ベイ e S Gプロジェクトの今後の展開	28
◆ 3か年のアクションプラン（臨海副都心エリア）	
◆ 3か年のアクションプラン（中央防波堤エリア）	
◆ 次世代モビリティの実装	
■ ベイエリアから世界へ「人類の未来の水準点となる都市の姿を世界へ広げる」	34

東京ベイ e S Gプロジェクトを加速させる

「感染症の脅威」と「気候危機」の2つの危機を乗り越えた先にある未来の都市の姿を描き、その実現に向けた「**社会の構造改革**」を速やかに推し進めることを目的に、「**東京ベイ e S Gプロジェクト**」を始動した。

これまで、**ベイエリア**（臨海副都心エリア、中央防波堤エリア）において取組を進め、とりわけ中央防波堤エリアを**巨大実装エリア**として開放し、様々な**最先端技術を生み出してきた**。

ベイエリアにおける周辺自治体との連携はもとより、プロジェクトの理念を官民学で広げていくため「**東京ベイ e S Gパートナー**」**制度**を創設し、**300団体**からなるネットワークへと広がっている。

併せて**未来を担う子供**たちから、レゴやマイクラフトなどの様々なツールを通じ、ベイエリアの未来に向けた**アイデア**を募ってきた。

こうして培ってきたプロジェクトの成果やネットワークを活かし、持続可能な社会の構築に向けて目指すべき未来の都市像を「**SusHi Tech Tokyo 2024**」で**国内外の多くの方々に発信**した。

現在ベイエリアでは、BRTの運行拡大や鉄道の整備計画が進むほか、東京2020大会レガシー施設や民間施設の整備、様々なイベントの開催により、**アート・スポーツ・エンタメなど新たな賑わい**が生まれてきている。

一方で、**デジタル技術の爆発的進化**や**気候危機**の深刻化、**人口減少・少子高齢化**等、**社会情勢は大きく変化**している。コロナ禍で構想したプロジェクトは**具体化のフェーズ**に突入しており、これまでの成果を更に発展させ、**プロジェクトを加速**していくことが求められている。

これまでの**戦略をアップデート**し、新たな4つの戦略のもと**2050年代の姿**とバックキャストで**2035年までの具体的な取組**を提案する。これらを「**東京ベイ e S Gプロジェクト (Version 2.0)**」として展開し、プロジェクトが掲げる「**新しい価値を生み続ける世界のモデル都市**」を目指していく。

東京ベイ e S Gプロジェクトとは

- ベイエリアを舞台に、50年、100年先を見据え、「自然」と「便利」が融合する持続可能な都市を創り上げることを目的として構想
- 渋沢栄一、後藤新平といった偉大な先人たちの精神を受け継ぎ、未来に住む人々を想い、これまでの延長線にはない大胆な発想で、世界をリードする都市を創り上げていく

50年・100年先の未来の東京を創る ～ 偉大な先人たちの精神を受け継ぐ ～

- 歴史を振り返ると、東京・日本の礎を築いてきた先人たちは、「持続可能性」を希求し、先見性と確固たる信念、絶え間ない努力で幾多の困難を乗り越え、ビジョンを描いてきた。
- 「日本資本主義の父」と呼ばれる**渋沢栄一**は、「国全体が豊かになるためには、経済発展の利益を独占するのではなく、社会に還元することが大切である」という考えのもと、**持続可能な社会の実践**に努めた。
- 関東大震災後、「帝都復興計画」を策定した**後藤新平**は、人の流れや物流の変化など、**50年・100年先の未来に住む人々を見据えた都市づくり**を進めた。
- 変化の激しい今だからこそ、こうした先人たちの精神を受け継ぎ、これまでの延長線にとらわれない大胆な発想で、**50年・100年先を見据えた都市のあるべき姿**を描いていく。
- この考えのもと、本来の「E S G」（Environment, Social, Governance）の概念も含め、以下の想いを込めて、「**東京ベイ e S Gプロジェクト**」を推進する。



渋沢栄一
(写真：国立国会図書館)

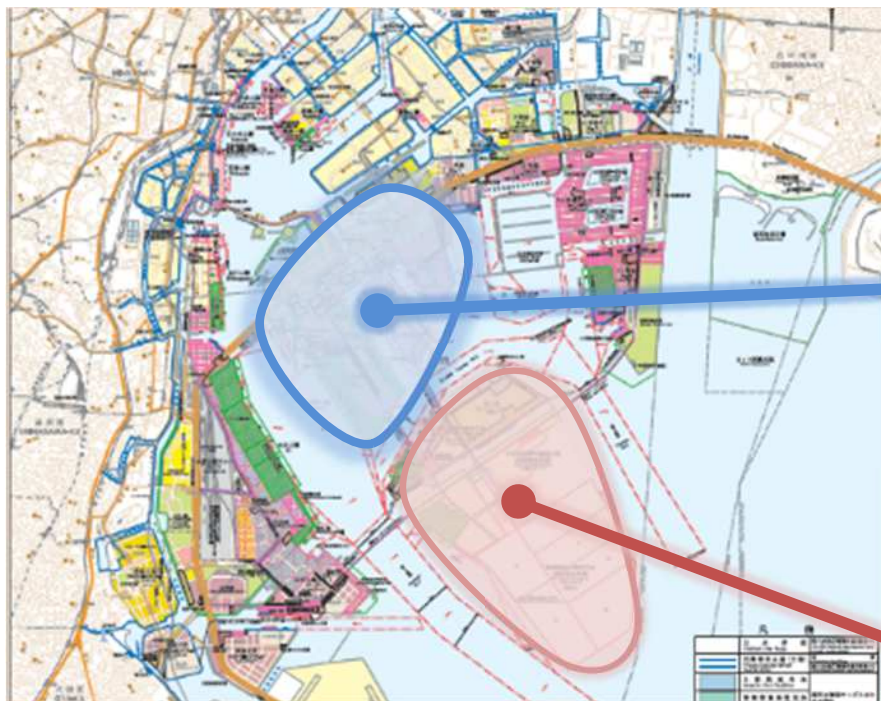


後藤新平
(写真：国立国会図書館)

e : 環境 (environment)、エコロジー (ecology)、
経済 (economy)、新時代を切り拓く画期的な技術 (epo^{ch}-making)
S G : 渋沢栄一、後藤新平の精神を受け継ぐ (Shibusawa、Goto)

ベイエリアを舞台に未来の東京を築く

- 水辺空間に恵まれた**ベイエリア**には、日本を代表する物流ターミナルに加え、商業機能、エンターテインメント、東京2020大会施設など**多様な魅力を持つ「臨海副都心」**、将来的には**約1,000haの広大な土地となる新しい埋立地**といったポテンシャルが存在する。
- 高いポテンシャルを活かし、**このフィールドを舞台にプロジェクトを先行して展開**し、デジタル時代においても「ここにしかない」魅力を求めて人々が集まり、持続可能な都市を実現する。
- **持続可能性と経済を両立させた都市モデル**を社会全体で共有し、ともに創り上げていくことにより、**東京の国際的なプレゼンスをさらに高めるとともに、世界が目指すべき未来の都市像**を発信する。



- 職・住・学・遊の機能や、水・緑に親しめる公園等がバランスよく立地する、ポテンシャルの高い都市
- 東京2020大会関連施設、民間のエンタメ施設、非日常的体験を提供するイベント等、新たな魅力が創出



スポーツと文化の拠点
(有明アリーナ)



食の祭典 (Tokyo Tokyo
Delicious Museum)



光のアート
(ARTBAY TOKYO)

- 他に類を見ないポテンシャルを持つ新しい埋立地

「自然」と「便利」が融合する「持続可能な都市モデル」の実現

- ▶ 世界最大の都市であった「江戸」では、衣食住のあらゆる場面でリユース・リサイクルが行われる**循環型社会**が成立し、「**自然**」と**調和した豊かな街**が育まれてきた。
- ▶ 江戸時代の伝統や、日本企業の高い技術力を生かし、最先端技術（デジタルテクノロジー、グリーンテクノロジー等）をいわば「使い倒す」など「**社会の構造改革**」を**速やかに実装**し、世界の大都市のモデルとなるような「**自然**」と「**便利**」が融合する**持続可能な都市**を創っていく。

【子供たちが描いた未来の都市像】



絵画で描いた未来を
ブロックで作品化



Minecraftカップ
東京ベイ e S G 賞受賞作品
©Minecraftカップ運営委員会



生成AIで具現化した楽しい未来

【バイエリアの賑わいと自然】



SusHi Tech Tokyo 2024
シンボルプロムナード公園の賑わい



海の森公園



護岸のグリーンインフラ（将来のイメージ）

プロジェクトのこれまでの振り返る

- 持続可能な未来の都市像の実現に向け、様々な主体との連携のもと、最先端技術の実装やベイエリアのまちづくりに取り組んできた
- これまでの取組の成果について振り返り、プロジェクトの更なる展開につなげていく

これまでの取組と成果（総括）

- ・最先端テクノロジーの「**実装**」と、未来の都市像の「**発信**」を両輪で進め、着実に浸透してきた
- ・多様な**賑わい創出**の取組により、ベイエリアの魅力は向上してきている

実装

- ▶ 中央防波堤で「**先行プロジェクト**」を展開
 - 「空飛ぶクルマ」都内初飛行
 - 世界発の技術を含む20件のプロジェクト

- ▶ 臨海副都心における**未来のまちづくり**
 - 「**自動運転推進区域**」を設定し、**自動運転Level4の実現に向けた支援**
 - **水素**を活用した脱炭素化に向けた取組を加速
 - 5G通信基盤の整備促進

- ▶ **プロジェクトの新たな拠点「Tokyo Mirai Park」開設**
 - テクノロジーを体感し**未来を考え**、パートナーとともに**新たな価値**を生み出す場

民間事業者による
先進的な取組を後押し

発信

- ▶ **SusHi Tech Tokyo 2024** ショーケースプログラム
の開催（来場者延べ約61万人）
 - “**未来の都市**”を広く都民が体感

- ▶ 「**東京ベイ e S G パートナー**」との連携
 - 国内外の**展示会**への出展し、技術をPR
- ▶ **子供たちの参画促進**
 - 人気ゲーム等を活用し**アイデア**引き出し

テクノロジーなど
未来を感じる機会を創出

賑わい創出

- ▶ 東京2020大会レガシー**施設**が誕生
 - **東京2020大会関連施設**
有明アリーナ、有明GYM-EX、
有明アーバンスポーツパーク、
有明テニスの森、
海の森水上競技場、
海の森公園

- ▶ 様々な**イベント**開催
 - Tokyo Tokyo Delicious Museum
 - GRAND CYCLE TOKYO
 - ARTBAY TOKYO

ベイエリアの
魅力発信

これまでの取組と成果（最先端技術の実装①）

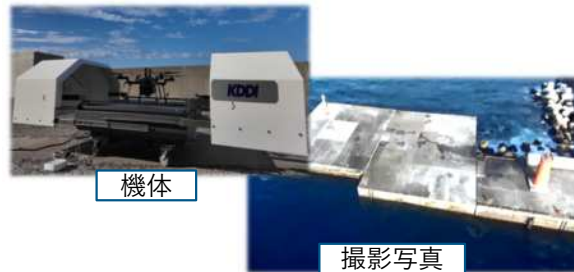
先行プロジェクト

- ・ 中央防波堤エリアを**巨大実装エリア**として活用し、**最先端技術の社会実装**を進める取組で、2022年度に開始
- ・ 事業期間を最大3か年として「**次世代モビリティ**」、「**最先端再生可能エネルギー**」、「**環境改善・資源循環**」の3テーマで募集、実装に向けた伴走支援を展開（これまで延べ20件を支援）
- ・ 生み出された技術を、社会課題解決に向け様々な場面で実装していく

次世代モビリティ

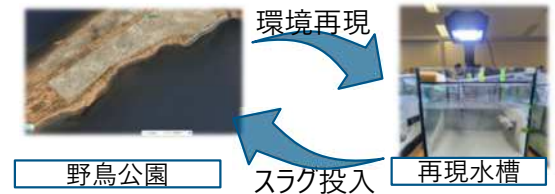
充電ポート付きドローン・ 運行システム

港湾施設管理に活用
(利島港)



環境改善・資源循環

環境再現技術・
鉄鋼スラグ
水質改善・生物多様性
回復に活用
(野鳥公園)



最先端再生可能エネルギー①

舗装式太陽光発電設備

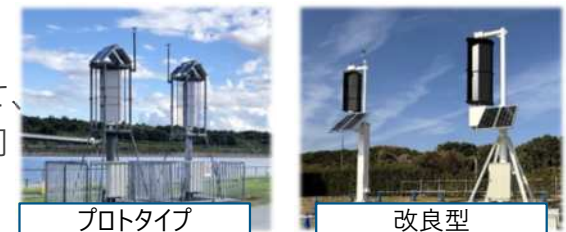
太陽光発電の更なる適地
拡大に活用
(港区)



最先端再生可能エネルギー②

可搬式風力発電設備

衛星通信と組み合わせ、
弱電源地域の防災力向上に活用
(三宅村)



これまでの取組と成果（最先端技術の実装②）

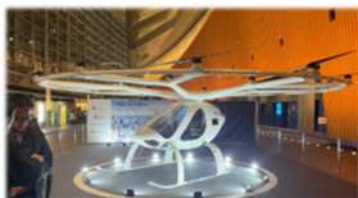
自動運転

- ・ **自動運転レベル4** の早期実装に向け、2024年7月ベイエリア（江東区・港区・品川区の一部）を「**推進区域**」に設定
- ・ 地元自治体と事業者とを結びつけ、関係者調整を円滑化、区域内で事業者が行う **社会受容性向上** に向けた取組を支援
- ・ SusHi Tech Tokyo 2024、有明エリア・江東区内におけるイベント、羽田や西新宿における試乗会（延べ約4,000人参加）など、社会受容性の向上を推進



空飛ぶクルマ

- ・ 先行プロジェクトで **2件** を採択
- ・ 社会実装を加速させるため、2024年1月 **ロードマップ** 公表
- ・ SusHi Tech Tokyo 2024 にて4日間、計7回の **都内初飛行** を実施（来場者約3,100人）
- ・ 2024年6月機体メーカーや運航事業者、通信や管制システムの関係者などを構成員とする「**空の移動革命 実現に向けた東京都官民協議会**」を設置



2024年3月 東京国際フォーラムで実施した実機展示

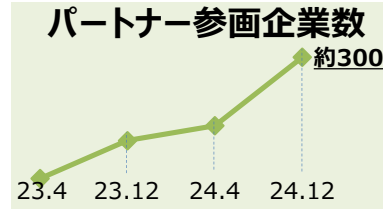
2024年5月 東京ビッグサイトでの都内初飛行

これまでの取組と成果（未来の都市像発信①）

東京ベイ e S G パートナー

国内外の大規模な展示会にブース出展、最先端技術を発信

- ・ Japan Mobility Show（東京ビッグサイト、12日間）
ブース来場2.7万人
- ・ CEATEC（幕張メッセ、4日間） 同2千人
- ・ IFAベルリン（5日間） 同7.5千人
- ・ SCEWCバルセロナ（3日間） 同2千人



子供の参画促進

レゴやMinecraftなどの人気のコンテンツと連携し、子供たちから**未来のベイエリア**に向けた**アイデア**を募集

- ・ Minecraftカップ 東京ブロック応募作品数
2023年：65作品 ⇒ 2024年：**130作品**
- ・ e S G 賞受賞作品をVR化し、「SusHi 2024」で公開



これらの取組を推進する新たな拠点

Tokyo Mirai Park

未来の東京を創造するため、子供たちをはじめ、様々なアイデアを形にする**Tokyo Mirai Park**を開設（日本科学未来館）

- ・ 2024年11月末のオープンから1か月半で**1.2万人以上**が来場、
みんなで未来を創るをコンセプトとした「未来年表」などに 約**1,000件**の声（1月22日時点）
- ・ 東京ベイ e S G パートナーと共創し、毎月ワークショップを開催

1階 Park テクノロジーに触れて未来を「想像」する場



3階 Lab

アイデアを技術でカタチにする「創造」の場



SusHi Tech Tokyo 2024 ショーケースプログラム

日本科学未来館

子供たちが未来のテクノロジーを体験



- ・「空飛ぶクルマシミュレーター」「ドローンデリバリー」「おばけレストラン」などのコンテンツを展開
- ・体験とワークショップで社会受容性向上に寄与



海の森エリア

最先端技術を集積



- ・海の森の陸・海・空の広大なエリアを活用し、先行プロジェクトで実装を進めるテクノロジーをリアルに体感
- ・東京ビッグサイトで「空飛ぶクルマの都内初飛行」



シンボルプロムナード公園

サステナブルをテーマに
新たな発見や気づきを創出



- ・食やアート、ファッション、モビリティなど体験コンテンツを展開
- ・伝統と革新のテクノロジーによる販わいの創出



有明アリーナ

未来の生活を体験



- ・宇宙エレベーター、自動運転車両、ロボット、アシストスーツなどのコンテンツを展開
- ・体験展示、ステージプログラムなど、65を超える企業・団体の協力のもとで実施



これまでの取組と成果（ベイエリアの賑わいづくり）

イベントでの賑わい

- ・ベイエリアで新たな賑わい創出イベントを次々と開催し、スポーツ、食、スタートアップイベントなど、それぞれの分野で**日本を代表するイベントへと成長**しつつある

Tokyo Tokyo Delicious Museum

東京の優れた「食」の魅力を多くの方に楽しんでいただくための
グルメフェスティバル 2022年5月～

GRAND CYCLE TOKYO

レインボーブリッジや東京ゲートブリッジを走行できるライド
イベント 2022年11月～ 第1回参加者約2,000人／第2回参加者
約4,500人／第3回参加者約6,000人

SusHi Tech Tokyo 2024

スタートアップ、世界のリーダーが集結、未来の都市を体感
2年でアジア最大級に成長 2024年4・5月 来場者延べ約61万人



大会レガシーを生かした魅力発信

- ・東京2020大会を契機に、ベイエリアに新たな**魅力ある施設**が次々と誕生している
- ・**大会のレガシー**として有効活用され、多くの人に親しまれている

有明アリーナ（2022年8月開業）

バスケットボール、コンサートなど

有明 GYM-EX（2023年5月開業）

大型展示場

有明テニスの森（2023年5月開業）

東レパンパシフィックオープンなど

有明アーバンスポーツパーク（2024年10月開業）

スケートボード国際大会など

海の森水上競技場（2022年4月開業）

アジア最大級の水上競技大会会場

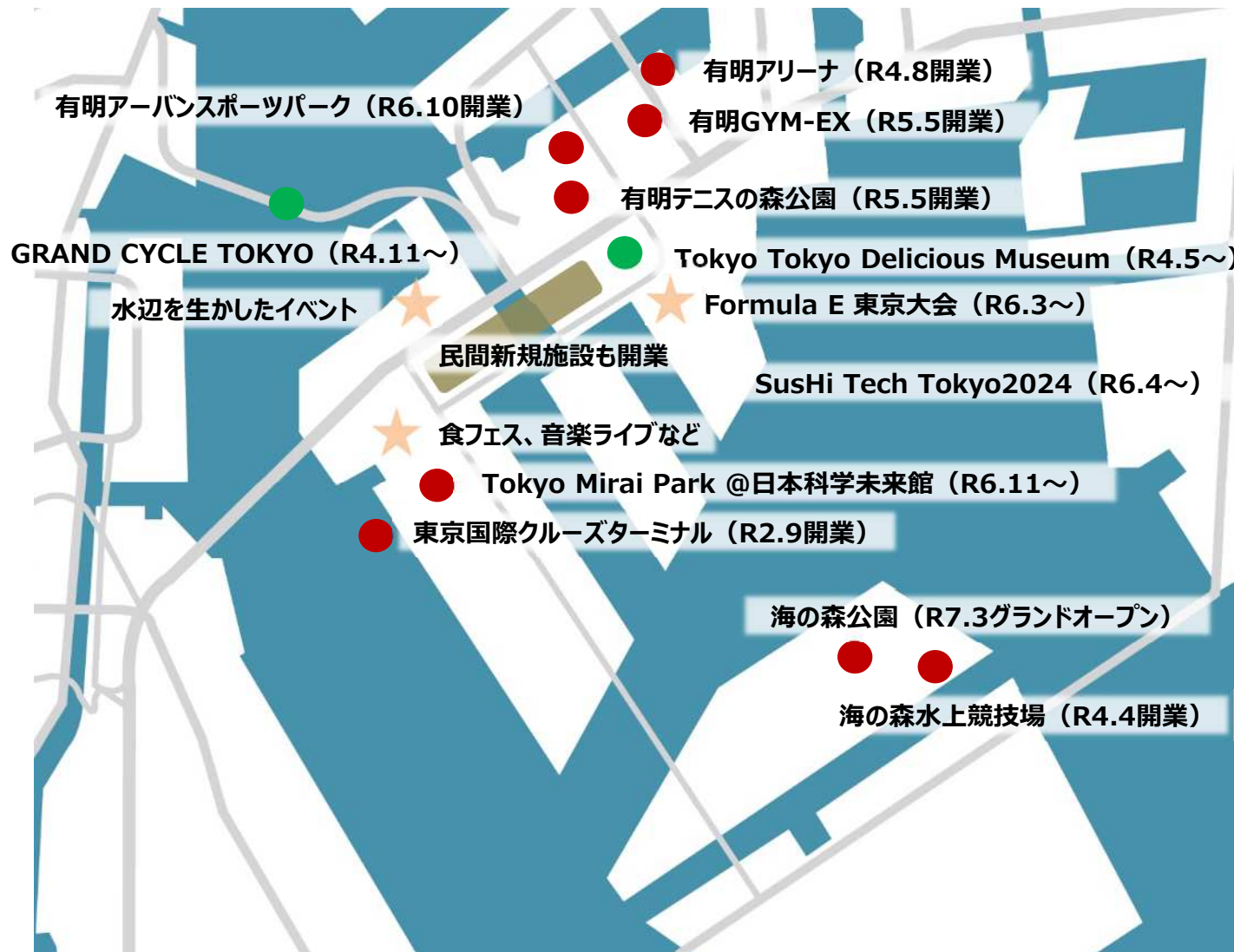
海の森公園（2025年3月グランドオープン）

音楽フェスやキャンプ



ベイエリアを取り巻く状況

ベイエリアでは、東京2020大会レガシー施設に加え、民間主体の施設開設や多種多彩なイベントなど
新たな賑わいが次々と誕生している



民間主体の取組事例

【イベント】

- EV自動車の世界的レース
- ビッグサイトで開催されるコミックマーケット、モビリティショー
- 世界各国、様々なジャンルの食のフェス
- テニス、スケートボード、バスケットボール、バレーボールなどの国際大会
- 音楽ライブ、音楽フェス
- ショーケースイベント

【施設】

- 大型総合商業施設（有明地区）
- イマーシブ体験施設
- 都市型EVサーキット

など

臨海副都心エリアの賑わいを創る新たなコンテンツ

①世界最大級の噴水



①お台場レインボー花火



⑤有明親水海浜公園



イメージ



イメージ

①イルミネーションアイランド
東品川 480 お台場



TOKYO DREAM PARK



①

⑤

②

③

④

©TOYOTA ARENA TOKYO



コナミクリエイティブ
フロント東京ベイ



提供：コナミグループ

③Tokyo Tokyo
Delicious Museum



④東京ビッグサイト



②フローラルパサージュ



プロジェクトの実現に向けた戦略

- 様々な成果を上げてきた一方で、AIなどデジタル技術の目覚ましい進歩、深刻さを増す気候危機など、プロジェクトを取り巻く環境は変化を続けている
- プロジェクトが目指す姿を実現していくため、戦略をアップデートし、取組を加速させる

プロジェクトの実現に向けた戦略をアップデート

- **デジタル技術**は目覚ましい進歩。とりわけ**生成AI**は爆発的に進歩し、あらゆる分野へと波及AIが人間の知能を超える**技術的特異点（シンギュラリティ）の到来**が早まる予測もある
- **気候危機**は年々深刻さを増し、猛暑、ゲリラ豪雨など災害が脅威に。各国で**脱炭素社会**を目指し、**再生可能エネルギー**の普及など**エネルギー確保**に向けた取組が加速、世界規模で**GX**が推進
- 「サステナブル（持続可能）」から「**リジェネラティブ（再生）**」な取組へと進展
- **人口減少・少子高齢化**による価値観や働き方の多様化など**構造的課題**も顕在化
- ベイエリアでは、東京2020大会を経て、民間の施設開発も進み、さらにはアート、食、エンターテインメント等、**非日常的な体験**を提供する様々なイベントなど、**まちに賑わいが創出**

コロナ禍で構想したプロジェクトは、具体化のフェーズに突入
これまでの成果を発展させ、社会への実装を進め、取組を加速するため戦略をアップデート

プロジェクトの目指す姿

新しい価値を生み続ける世界のモデル都市

4つの戦略のもと2050年代の姿と
バックキャストで2035年までの具体的な取組を提示

環境・GX

DX・テクノロジー

共創・仲間づくり

まちづくり

プロジェクトの実現に向けた戦略（2050年代に向けて）

環境・GX

環境技術を駆使し、ゼロエミッションを実現した世界のモデル都市を構築

- 再生可能エネルギーで、**エネルギーの地産地消**を実現
- 「サステナブル」を超え、**自然の再生と経済の発展が調和した都市**
- 素材や製品の特性を踏まえたライフサイクル全体での資源循環を実現した**サーキュラーエコノミー**

DX・テクノロジー

人の知能を超えたデジタル技術を活用、イノベーションが連鎖、便利で快適な都市を実現

- 知性を備えた様々なデジタル技術**がまちに実装
- 生活に密着した**ロボット、モビリティ**により、高い生産性・快適な**モデル都市**へ
- イノベーションが連鎖し、**新たな英知が集積**する場を創出

共創・仲間づくり

ゲームチェンジを起こす挑戦者、未来を担う子供、多様な主体が絶えず活躍する舞台を創出

- 挑戦者が集い**、共感と共創によるベイエリア発のサステナブルなテクノロジーが次々と生み出され、**テクノロジーの発祥の地**として世界から注目
- 2050年の子供たちが、その50年・100年先の明るい**未来像**を描き、**実現できる技術**「Dream Oriented Technology」が完備

まちづくり

広大な空間や水辺を生かした賑わいの創出、「新しい何かと出会える」世界を魅了する都市を実現

- テクノロジーと感性が高度に融合された、芸術文化、スポーツ、エンターテインメントなどの**世界有数の発信地**に
- 充実した交通ネットワークを備え、快適で豊かな、泳げる水辺や多様な緑・生物が調和し、**人を中心にしたサステナブルな都市**

2050

環境技術を駆使し、ゼロエミッションを実現した世界のモデル都市を構築

- ① 再生可能エネルギーで、エネルギーの地産地消を実現
- ② 「サステナブル」を超え、自然の再生と経済の発展が調和した都市
- ③ 素材や製品の特性を踏まえたライフサイクル全体での資源循環を実現したサーキュラーエコノミー

2035

- ① 再生可能エネルギーの導入によるエネルギー自給率の向上
 - ・ ベイエリアにおけるグリーン水素の製造と供給体制の構築
 - ・ 次世代型ソーラーセル、舗装式太陽光をはじめとした最先端再生可能エネルギーが街中で展開
- ② 様々な環境技術を駆使し、サステナブルなまちへ
 - ・ 水質改善や水辺のグリーンインフラ・ブルーインフラ整備など、生物多様性の保全・回復を推進するとともに、ベイエリアにおける水辺空間の再生
 - ・ グリーンファイナンスの活用など、先端技術の開発を後押し
- ③ エリア全体で取り組む、複合的なサーキュラーエコノミーの実践
 - ・ 臨海部の都市空間等を活用したアーバンファームの推進や、DAC技術※の積極活用などにより、カーボンリサイクルを見据えた資源循環技術を実装



※ DAC技術 … Direct Air Capture（：直接空気回収）
大気中の二酸化炭素を直接回収する技術

2050

人の知能を超えたデジタル技術を活用、イノベーションが連鎖、便利で快適な都市を実現

- ① 知性を備えた様々なデジタル技術がまちに実装
- ② 生活に密着したロボット、モビリティにより、高い生産性・快適なモデル都市へ
- ③ イノベーションが連鎖し、新たな英知が集積する場を創出

2035

- ① 先駆的なデジタル技術をベイエリアのまちづくりや人々の生活へ実装
 - ・ ヘルスケアや食・趣味など、**個人に最適化された快適な環境づくり**を先駆的なデジタル技術で推進
 - ・ 多彩な**コミュニケーションロボット**が、ベイエリアの案内やサービスを充実
- ② 様々な場面にロボット、モビリティ等を先駆的に導入し、生活・生産レベルを向上
 - ・ 輸送、高所作業、インフラ点検など**利便性や安全性を高めるロボットやドローン**の活用、導入
 - ・ **空飛ぶクルマ**や**自動運転**、自動運行船等に加え、場面や個人の特性に応じた**パーソナルモビリティ**が活躍
 - ・ **身体拡張**や、**アシストスーツ**、**介護**、**ヘルスケア技術**など、社会課題解決に資する技術開発を集積
- ③ 積極的なショーケースの展開により、イノベーションを生み出す土壌を育成
 - ・ ロボット、モビリティなど**新技術の実装を先導する巨大実装エリア**を創出
 - ・ **宇宙・海洋フロンティア開発**、**DXインフラ**など、新たなイノベーションを生み出す仕組みを検討



2050

ゲームチェンジを起こす挑戦者、未来を担う子供、多様な主体が絶えず活躍する舞台を創出

- ① 挑戦者が集い、共感と共創によるベイエリア発の持続可能なテクノロジーが次々と生み出され、テクノロジーの発祥の地として世界から注目
- ② 2050年の子供たちが、その50年・100年先の明るい未来像を描き、実現できる技術「Dream Oriented Technology」が完備

2035

① 多様な主体が結びつき共創する「e S G版エコシステム」の構築

- 多様な主体に東京ベイ e S G パートナーへの参画を促し、社会課題解決の**挑戦を形にする環境整備・規制緩和**を推進
- ベイエリアで、関係自治体、団体、パートナー企業、訪れる人々との連携・参画する「**e S G版エコシステム**」を構築し、**イノベーションを創出**
- ゲームチェンジの**挑戦者と投資家とを結びつける**機会の創出



② 子供や若者の豊かな発想を具体化し、実現していく「共創活動」の推進

- 子供たちが想像する「**未来の姿**」を、技術により具現化、製品化するなど、多彩な共創活動を展開



2035年：最先端技術が実装された、アジアを代表するイノベーションフィールド

再生可能エネルギーの街中展開



パーソナルモビリティの活躍



自動運転Level4の普及



アート、エンタメ、スポーツ大会、ナイトタイムの充実

エンタメ×DX（噴水、ドローンショー、プロジェクションマッピング等）



水と緑を生かした、ゆとりと潤いのある空間

パイプラインによる水素供給



コミュニケーションロボットによるサービス充実



空飛ぶクルマの商用運航



護岸のグリーンインフラ



新たなイノベーションを生み出す場の検討

アーバンファームの推進



子供たちが想像する未来を具現化



技術の実装
サービスの実現

DAC装置 カーボンリサイクルの推進



サーキュラーアグリカルチャーの推進



グリーン水素の製造



2050年以降：新しい価値を生み続ける世界のモデル都市



快適で豊かな泳げる水辺

知性を備えた様々なデジタル技術がまちに実装
ロボット、モビリティにより、高い生産性・快適なモデル都市へ

芸術文化、スポーツ、エンターテインメント 世界有数の発信地



フードTech

江戸前の魚介



両エリアの機能が融合
テクノロジーの発祥の地として世界から注目

人々の営みが環境再生へとつながる都市
多様な緑・生物が調和 サステナブルな都市



子供たちがワークショップで製作

エネルギーの地産地消を実現



空と海のキャンプサイト

イノベーションが連鎖し、新たな英知が集積



子供たちがワークショップで製作

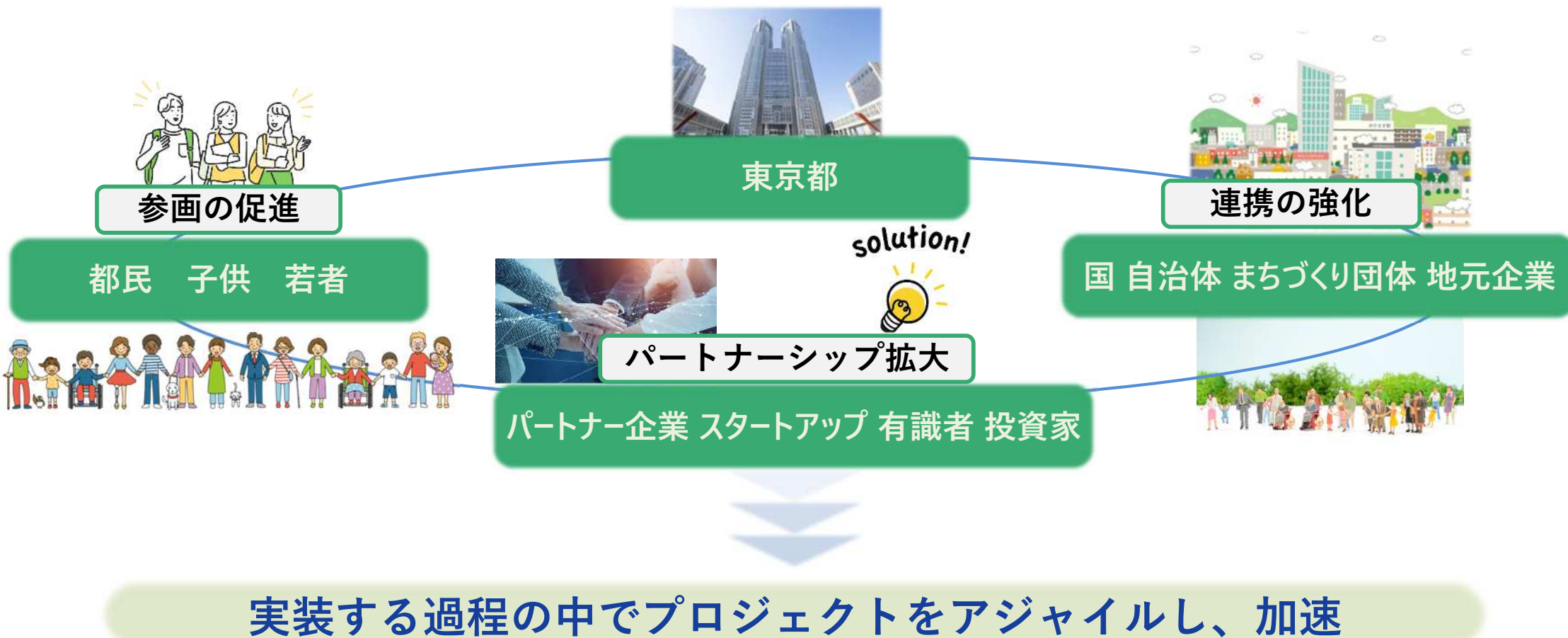
サーキュラーエコノミーへの移行を通じ、持続可能な資源利用を実現

プロジェクトの今後の展開

- 戦略を実行していくため、様々な主体との連携を深めながらプロジェクトを加速させる
- 臨海副都心エリア、中央防波堤エリアでの取組を発展させ、ベイエリアから東京全体、日本全体へと波及し、プロジェクトが目指す持続可能な都市モデルを、世界へ発信していく

東京ベイ e S Gプロジェクトの今後の展開

- ▶ 今後、具体化した将来像の実現に向け、様々な主体との**連携体制のもと具体的なプロジェクトを推進**していく
- ▶ あわせて、民間開発の誘導方針などの具体的な取組をまちづくり戦略に反映し、時代や状況の変化に応じて、**プロジェクトをアジャイルしながら加速**していく



3か年のアクションプラン（臨海副都心エリア）

「2050東京戦略（案）」より抜粋

- 臨海副都心エリアのポテンシャルや多様な魅力を活かした事業を展開

○ 脱炭素化の推進

- 「臨海副都心カーボンニュートラル戦略」に基づく取組の推進

○ 次世代モビリティの社会実装

- 来訪者の回遊性を一層高めるため、自動運転車両等の次世代モビリティを運行

○ 共創・仲間づくり

- 「Tokyo Mirai Park」での「e S G版エコシステム」の推進、未来につながる最先端技術の発信
- SusHi Tech Tokyo などを通じ、最先端技術を活かしたビジネスの機会を拡大

○ 魅力と賑わいにあふれるベイエリアの形成

- 東京の食の魅力を堪能できるTokyo Tokyo Delicious Museum
- 冬の一大イベントとなるイルミネーション
- 誰もが多様なアートに親しむ「東京お台場トリエンナーレ2025」
- 新たなランドマークとなる噴水
- 国内最大級の花の回廊「トウキョウフローラルパサージュ」
- 民間連携で賑わい創出
- 都心部・臨海地域地下鉄の事業化に向けた取組を推進



具体的な取組	年次計画		
	2025年度	2026年度	2027年度
ベイエリア 魅力、賑わい創出	噴水整備工事	運用	
		DIC協議会の取組推進	
脱炭素化の推進		エリア内の水素供給・利活用に向けた技術開発	
多様な交通手段の充実		事業計画検討、駅とまちとの連携検討	

3か年のアクションプラン（中央防波堤エリア）

「2050東京戦略（案）」より抜粋

・最先端技術の社会実装を集中展開 未来技術のショーケース化・賑わい創出を推進

○ 先行プロジェクトの強化

- ・次世代モビリティ、最先端再生可能エネルギー、環境改善・資源循環をテーマに、更なる「ショーケース」化を促進
- ・採択事業者と関係自治体等のコラボレーション

○ 水素供給体制の構築

- ・太陽光発電を活用したグリーン水素製造施設整備

○ 魅力と賑わいにあふれるベイエリアの形成

- ・海の森公園での立地を生かしたイベントの実施（音楽フェス、音楽や食と組み合わせたキャンプなど）

○ コンテナふ頭の機能強化

- ・新たなふ頭整備（Y3）を通じてDX・GXを強力に推進

具体的な取組	年次計画		
	2025年度	2026年度	2027年度
先行プロジェクト	事業採択・支援、街中への実装		
グリーン水素製造施設整備	設計		整備
海の森公園の活用	アクセス改善（自動運転等）・イベント実施		
Y3の整備		整備	



○廃棄物処分場としてできる限り長く活用しつつ、法的・技術的な制約を踏まえ、当面は、実装エリアとして活用

30 ○将来的に、このエリアの特性を生かし、ここでしか体験できない、海と緑に囲まれた自然と調和した未来の都市を実現

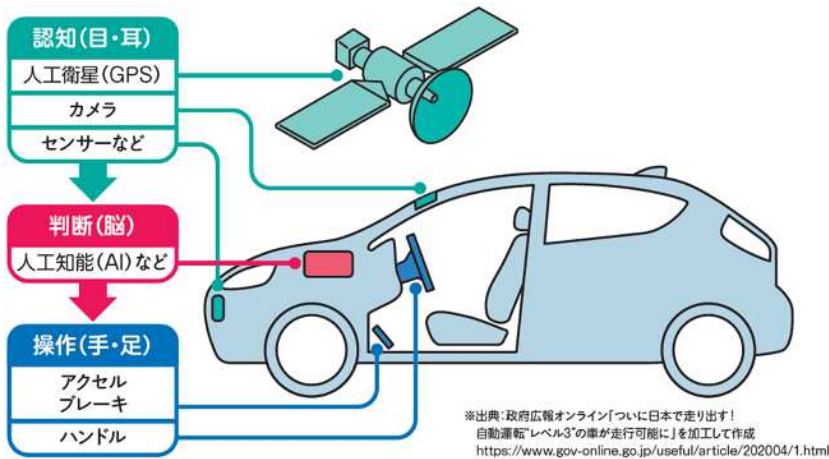
次世代モビリティの実装

誰もが多様なモビリティを選択でき、自由自在に移動できる社会の実現に向け、自動運転や空飛ぶクルマなど、次世代モビリティの都市への実装を加速

自動運転の社会実装

- 自動運転は、人工衛星の位置情報システム（GPS）、車につけたカメラやセンサーなどを使い、周囲の状況を認知し、車をどう動かすかを人工知能（AI）など、システムが判断し、ハンドルやアクセルなどの操作指示を出すことにより、モビリティを自動で動かす技術

自動運転の技術



自動運転の普及により期待される効果

交通渋滞の緩和

交通事故の減少

移動手段の確保

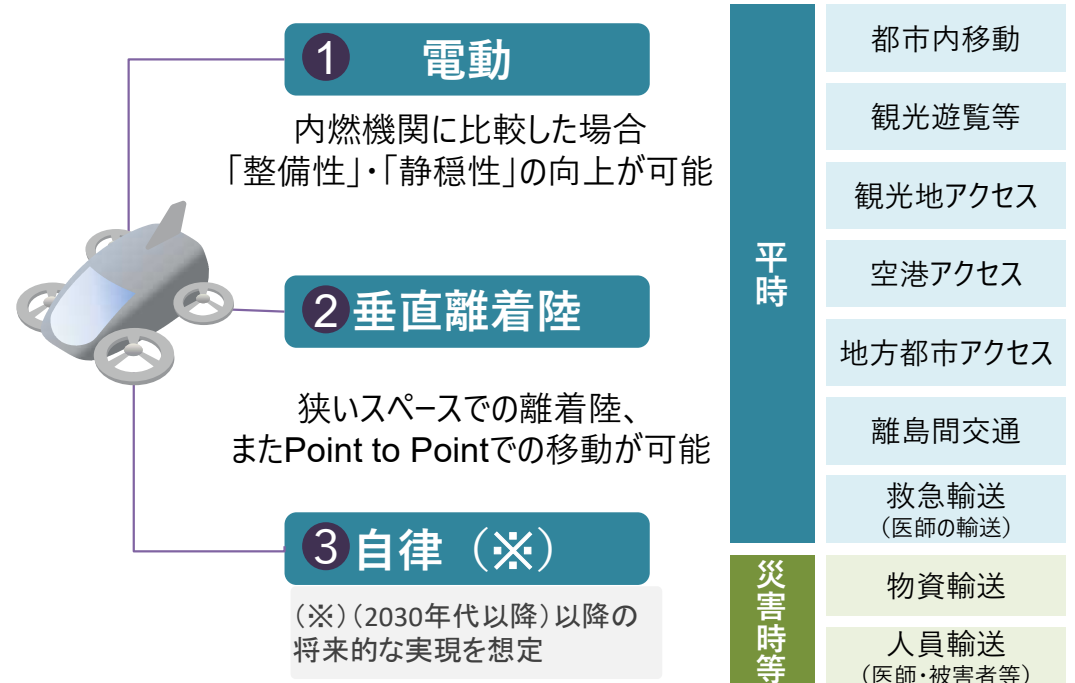
ドライバー不足の解消

空飛ぶクルマの社会実装

- 空飛ぶクルマとは、電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段

空飛ぶクルマの特徴

期待されるユースケース（例）



66/99

- 諸外国では、Advanced Air Mobility (AAM) や Urban Air Mobility (UAM) と呼ばれている
- 「クルマ」と称するものの、必ずしも道路を走行する機能を有するわけではなく、個人が日常の移動のために利用するイメージを表している

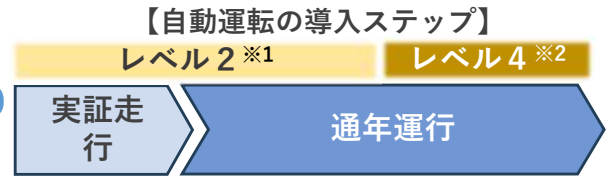
次世代モビリティの実装【自動運転】

自治体等と連携した自動運転の展開

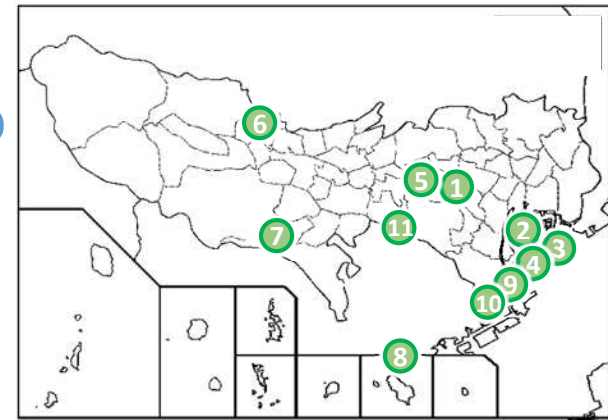
- 臨海部や西新宿、多摩・島しょ地域など、都内各地でレベル2自動運転による実証走行や通年運行を展開
- 今後、着実に取組のステップアップを図り、都内でのレベル4自動運転の社会実装を実現

<都と自治体等とが連携した取組>




<p>①西新宿 バス</p> <p>・R7年2月～レベル2 通年運行予定</p> 	<p>②有明・台場 タクシー等</p> <p>・R7年1月～レベル2 通年運行</p> 	<p>③海の森公園 バス</p> <p>・R6年5月レベル2 実証走行</p> 	<p>④シンボルプロムナード公園 バス</p> <p>・R6年度5月～6月 レベル2実証走行</p> 
<p>⑤荻窪駅周辺 バス</p> <p>・R6年11月レベル2 実証走行</p> 	<p>⑥箱根ヶ崎駅周辺 バス</p> <p>・R7年2月レベル2 実証走行予定</p> 	<p>⑦多摩センター駅周辺 バス</p> <p>・R6年12月レベル2 実証走行</p> 	<p>⑧八丈島 バス</p> <p>・R6年7月～8月 レベル2実証走行</p> 



※1：運転主体はドライバーで、基本的に自動で運転操作を行うが、ドライバーが常に監視している状態
 ※2：運転主体はシステムで、あらかじめ定めたエリア等の条件において完全自動運転が可能な状態



<その他都内における取組>

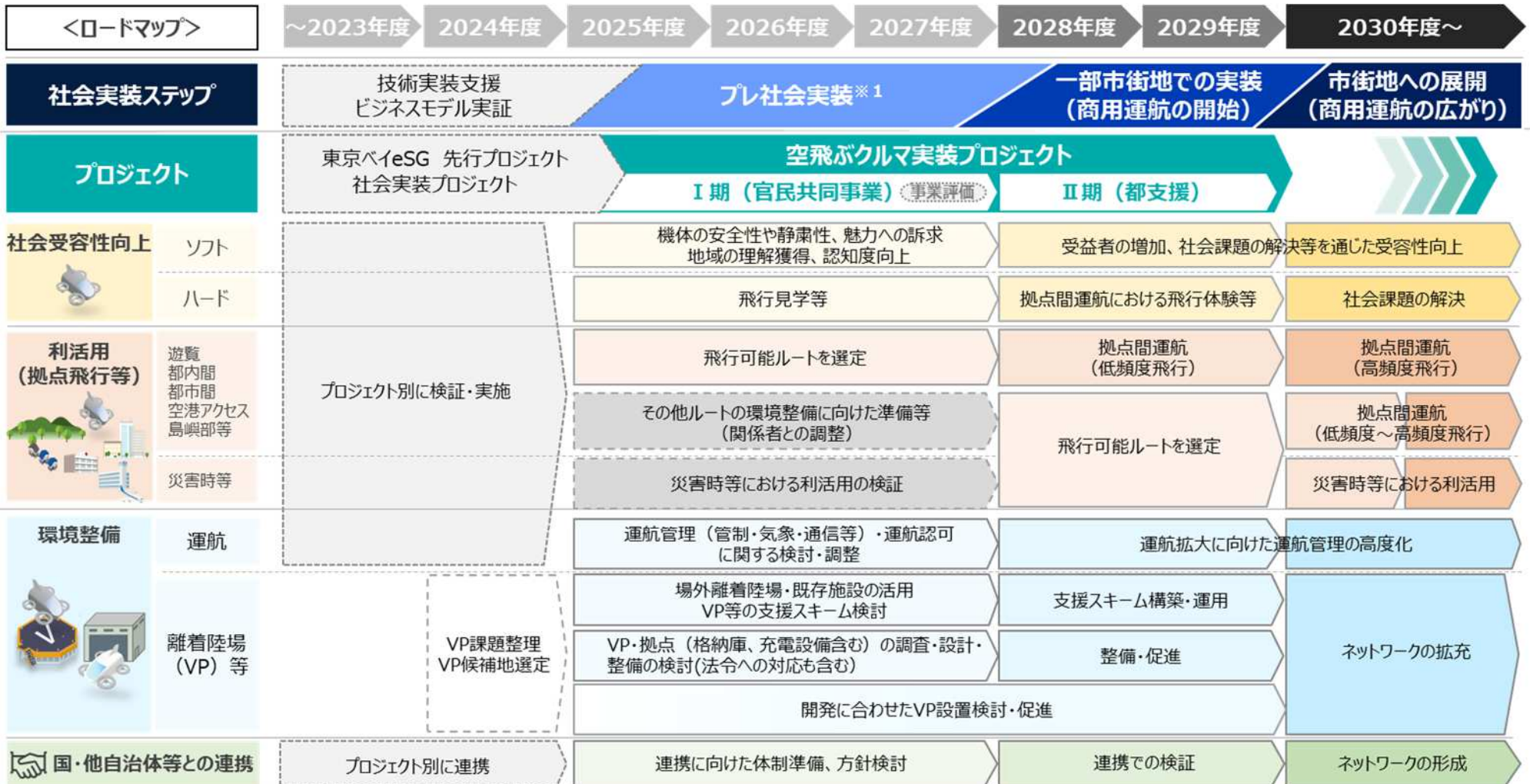
<p>⑨羽田イノベーションシティ内 バス</p> <p>・R6年8月～レベル4 通年運行</p> 	<p>⑩大田区羽田エリア バス</p> <p>・R7年1月～2月 レベル2実証走行</p> 	<p>⑪和泉多摩川駅周辺 バス</p> <p>・R6年12月レベル2 実証走行</p> 
---	--	---

◆意欲ある事業者等の取組を総合的に支援し、早期の社会実装を加速



次世代モビリティの実装【空飛ぶクルマ】

- 2030年の市街地への展開を目指して、ロードマップを精緻化し、官民連携の取組を加速
- 既存プロジェクトの成果を反映しつつ、空飛ぶクルマの社会実装に必要な「社会受容性向上」、「利活用（拠点飛行等）」、「環境整備」の3つの要素別に整理し、同時に推進



「空の移動革命実現に向けた東京都官民協議会」での議論も踏まえとりまとめ（今後の社会情勢、環境変化、技術進展等の状況等に応じ、内容を更新）

※1 プレ社会実装：型式証明を取得した機体、航空運送事業許可を取得した事業者による実機の飛行検証を伴う実証実験の推進（＝商用運航）を想定

※2 VP（パーティポート）：航空法上の「空港等」にあたり、種類としては、「ヘリポート」のうち空飛ぶクルマ専用のものをいう

※3 空飛ぶクルマ：電動化、自動化といった航空技術や垂直離着陸などの運航形態によって実現される、利用しやすく持続可能な次世代の空の移動手段

バイエリアから世界へ

「人類の未来の水準点となる都市の姿を世界へ広げる」

産業・経済・文化を含めた社会全体の変革・発展につながる東京ベイ e S Gプロジェクトが目指す「持続可能な都市モデル」を、世界へ発信していく

バイエリア⇒東京

21世紀のあるべき
都市像を実装する



日本のモデル

日本中に成果を
波及させる



世界のモデル

バイエリアが
未来の水準点となる

